

第七十四回
帝國議會
貴族院

朝鮮事業公債法中改正法律案特別委員會會議事速記録第四號

昭和十四年三月一日(水曜日)午後一時三十九分開會

○委員長(伯爵堀田正恒君) 是ヨリ開會致シマス

○子爵野村益三君 私ハ實ハ今迄缺席ヲシテ居ッテ、今日初メテ御質疑ヲスルノデアリマスノデ、モウ既ニ各委員カラ御質問ノ大部分ハ終ッタノデアラウト思フ、從ッテ或ハ重複スルコトモアルカモ知レマセヌ、若シ重複スルヤウナコトデアリマシタラ、ソレハ御省キニナッテ宜シイと思ヒマス、細カイクトハ扱措キマシテ、外地ヲ通ジテ、殊ニ朝鮮ニ於キマシテハ交通、其ノ中デモ鐵道ノ方面ガ最も重要視サレナケレバナラヌト思ヒマス、私ノ伺ヒタイノハ、表ニシマシテ御示ヲ願ッたら一番便利デアラウト思フノデアリマス、是モ先刻申上ゲタヤウニ劈頭ニ資料トシテ要求シタカッタノデアリマスガ、併シナガラ若シ私ノ希望スルヤウナ表ガ出來タナラバ自他共ニ非常ニ好都合ト思フ、一ツ出來得ル限リ御調ベヲ願ヒタイト思フノデアリマス、ソレハ現在ノ朝鮮ノ國有鐵道ハアラカタ十四線アルト思ヒマス、其ノ中デ既成ノ線路、ソレカラ未成ノ線路、

ソレヲ一ツ竝ベテ戴キタイ、ソレカラ其ノ十四線ニ付テノ成績、即チ一日「キロ」當ノ旅客ノ數竝ニ貨物ノ「トン」數ノ通過數、而シテ其ノ收入、即チ一日「キロ」當リノ收入、サウ云フモノヲズット竝ベテ戴イタラ彼此比較スルノニ便利ダラウト思フノデアリマス、ソレカラ此ノ利益ノ率デアリマスルガ、此ノ間カラノ御話ニ依ルト、大體ヲ通ジテ「キロ」當五十八圓、是ハ押並ベテノ數デアル、ソレカラ私設ノ鐵道ニナルト云フト十九圓ト云フヤウナコトデアル、從ッテ率ノ方ニナリマス、國有鐵道ノ方ハ約六分、ソレカラ私設鐵道ノ方ニ於テハ一分八厘デシタカト云フヤウナ率ラシイ、サウ云フノヲ一表ニ一ツ整ヘテ所謂一覽表ミタイナモノガアッタラ非常ニ便利デアル、是モ出來ニナルダラウト思ヒマス、ソレガ一ツノ要求デス、ソレカラ先刻申スヤウニ鐵道ノ敷設ハ拓務上、統治上極メテ必要デアルノデアリマスガ、朝鮮ニ於テハ甚ダ少イ、ソコデ假ニ國有鐵道ノ九百二十一「キロ」デスカ、是ガ敷設サレ、尙其ノ上ニ主ナ私設鐵道ガ敷設サレタ時分ニハ、一體朝鮮ノ鐵道ト云フモノハドノ位ナ割合ニ普及スルモ

ノデアルカ、只今デハ此ノ表ニ依リマス、内地ニ比較スレバ無論少イ、北海道ニ比較シテモ少イ、尙臺灣ニ比較シテモ少イ、僅カニ殆ド一千「キロ」デスカニ對シテ二十四「キロ」コンナモノダト思フ、ソレハ此ノ表ニ依リマス、此ノ私設鐵道ヲモ寄セテノ割合、處デ其ノ普及ノ状態ハ、現在ノ國有鐵道ノ程度デハ幾ラ、ソレカラ國有鐵道ノ未設線ヲ完成シ、假ニ其ノ上ニ私設鐵道ノ五線ヲ加算スルト云フヤウナ體ニハ一體ドウナルカ、ソレデモ大シタコトハナカラウト思フ、デ此ノ朝鮮ノ鐵道ヲ大觀スルト、ドウモ其ノ要衝ニ於テ途切レテ居ル、我々ハ之ヲ動脈ノ結滯ト稱シテ居ルノデスガ、斯ウ云フ専門ノ言葉ガアルカドウカ知リマセヌガ、私ハサウ云フ惡口ヲ言ッテ居ル、大分結構ガアル、此ノ結滯ヲ昭和十七年デスカ、十七年度ニ直ス、スルト餘程效果ガ舉ガラウト思フ、サウ云フヤウナコトヲ考ヘマシテ、現在ノ状態トソレカラ將來ノ國有鐵道ガ完成シタ場合、ソレニ尙第三段トシテハ私設鐵道ノ五線ヲ假ニ加ヘタ曉ニハ、朝鮮ノ鐵道經營ト云フモノハ、普及ノ程度ハドノ位ニナルト云フヤウナコトヲ實ハ知リタ

イノデアリマス、サウ云フヤウナ表ハ容易ク出來ルト思ヒマスガ、御手數デアリマスガ、只今デナクテモ無論宜イノデス、適當ナ時ニ御示ヲ願ヒタイ、斯ウ思フノデアリマス、宜シウゴザイマス

○政府委員(大野綠一郎君) 了承致シマシタ

○子爵野村益三君 私ハ此ノ機會ニ交通、殊ニ鐵道ヲ中心トシテ朝鮮ノ統治ノ問題ニ觸レテ御尋ネシタイト思ヒマスガ、宜シウゴザイマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 宜シウゴザイマス

○子爵野村益三君 我々ハ此ノ外地ノ統治ノ成績竝ニ外地ノ民度ノ進歩ト云フコトヲ斷エズ考ヲ察シテ置ク必要ガアラウト思ヒマス、又當局ニ於テモ、朝鮮ノ當局ハ獨リ朝鮮ノ統治ノコトニ限ラズ、或ハ臺灣ナリ其ノ他ノ方面ノサウ云フ状態ヲ、斷エズ御考究ニナル必要ガアラウト思ヒマス、處ガドウモサウ云フコトガ、從來參考書ヲ載イテモ、例ヘバ此ノ朝鮮ノ要覽ヲ繕イテモ我々ノ頭ニピント來ナイ、是ハ今急ニサウ云フコトヲ御要求申スノハ無理ト思ヒマスケレドモ、

是ハ來年位ノ宿題トシテ一ツ御研究ニナツタラ如何カト斯ウ思フノデアリマス、私モ實ハ本特別委員ニ列スル序ヲ以テ、久シ振リニ朝鮮ノ統治ノ内容ニ付テ顧ルコトノ出來タノヲ非常ニ幸ト思フノデアリマス、然ラバ統治ノ成績並ニ此ノ民度ノ進歩ヲドウ云フ物差ニ依ッテ計ルカト云フコトハ、是ハ考究ヲ要スル問題ト思ヒマス、是ハ二ツヤ三ツノ事柄デ之ヲ計ルコトハ出來ナイノデアリマス、其ノ方法ヲ如何ニスルカト云フコトハ、私トシテハ私案ガアルノデスケレドモ、是ハドウカ當局ニ御願ヒシテ、能ク一ツ拓務省ノ方モ御聽置キ願ヒ、又拓務省ノ方トモ御協議下スツテ、サウシテ重要ナル資料トシテ近キ將來ニ於テ御示ヲ願ヒタイ、斯ウ思フノデアリマス、此ノ要覽ヲ緝イテ見マシテモ、例ヘバ人口ノ問題、殊ニ動態人口ノ問題デアリマスガ、ドウモ物足りナイ、男ト女ノ割合ト云フモノハ、御承知ノヤウニ内地ニ於テハ非常ニ平衡ヲ得テ居ル、是ハ非常ニ幸ナコトデ、我々我々國民ノ間ノ道德モ、社會觀念モ此處カラ生レルモノト信ジテ居ル、處方朝鮮ニ於キマシテハ此ノ男ノ數ガ頗ル多イ、ソコデ結婚ト云フモノガナカ／＼ムツカシクナル、家庭ト云フモノヲ形ヅクルコトガ出來ナイ、從ッテ我々

ノ要求スルヤウナ、又經驗シテ居ルヤウナ尊イ體驗ト云フモノハ得難イノデアリマス、サウ云フコトデアレバ、他ニ何カ社會的ノ施設ヲ講ジテ其ノ缺ヲ補フベキダト思フ、ア、云フ所ノ此ノ氣候、ア、云フ所ノ風土ノ下ニ、ア、云フ其ノ生活ヲシテ居ルト云フ其ノ二千萬ノ同胞ニ對シテハ、特ニサウ云フ考慮ヲ要スルモノト思フ、此ノ要覽ニ依ッテ見マシテモ、私達内地ト違ッテ、此ノ死亡者ノ病源ト云フモノハ、内地デハ御承知ノヤウニ腸疾患ガ多イ、然ルニ朝鮮ニ於テハサウデナイ、神經系統ノ疾患ノモノガ非常ニ多イ、是モ一ツノ特異性ヲ持ッテ居ルノデアリマス、ソレカラ例ノ最モ此ノ忌ムベキ天然痘トカ、或ハ肺臟「デストマ」ノ如キモ、是モ亦一ツノ特色ト見ルベキデ、斯ウ云フヤウナ施設モヨリ以上ナサナケレバナラナイ、併シ過去十年ヲ考ヘテ見ルト、サウ云フ方面、デモ大分減ッテ居ルト思フ、我々我々知リタイノハ、所謂統治上ノ成績ト云フモノヲ、少クモ十年前ト現在ト云フモノヲ、斯ウ云フモノヲ比較シテ實ハ研究シタイ、ソコデ將來十年ナリ若シクハ五年間ノ政策施設ト云フモノガ立ツ、サウ云フモノガナイト將來ノ施設ト云フモノモ講ズル譯ニ行カナイ、學校ノ方面教育ノ方面ニ致シ

マシテモ、昭和十二年ニ漸ク一面一校ノ狀態ニナツタ、今度ハ就學兒童ヲ五十「パーセント」ニシヨウト云フ新シイ計畫ニ向ッテ進マレテ居ル、サウナレバ必然義務教育ト云フモノヲ行ハナケレバナラヌ、モウサウ云フ點ニ於テモ御用意ガ必要ト思ヒマス、殊ニ御承知ノヤウニ教育審議會デハ學制改革ニ付テ非常ニ熱心ニ審議ヲ續ケテ居リマス、サウ云フヤウナ經過ニ付テモ朝鮮ノ當局者トシテハ今カラ關心ヲ持タルベキモノト思フ、例ヘバ此ノ實業學校ナリ高等ノ教育機關ニシマシテモ、果シテ人口何人ニ學生、生徒ノ數ガ當ルカ、是モ十年間ヲ比較スルトキハ著シイ進歩ダト思フ、殊ニ女子教育ノ如キハ最モ朝鮮デ力ヲ注ガナケレバナラナイノニ、頗ル是ハ遲々トシテ振ハナイ、國語ヲ解スル者ハ、此ノ間ノ速記録ニ依リマスト何デモ一割ト云フ御話デアリマスガ、僅カニ二百萬人ノ者ガ國語ヲ解スルト云フヤウナコトモ、統治上大イニ施設ヲ加ヘナケレバナラヌ問題ト思フノデアリマス、ソレカラ、今ノ教育、衛生ト云フコトガ大體サウ云フコトデアリマス、延イテ産業ノ問題デアリマスガ、是モ御承知ノヤウニ此ノ產米増額計畫、是モ一時ア、云フヤウナ狀態ニナル、ソレカラ畜産ノ類デ

モ、牛ノ如キハ非常ニ發育ヲシテ、内地ニ於ケル數ヲモ今ハ凌駕シテ居ルト云フヤウナコトデアリマス、サウ云フヤウナコトモ非常ニ結構ダト思ヒマス、其ノ他ノ例ヘバ林業ノ如キニ於テモ、是ハ他ノ外地ト違ッテ、一方ニ於テ植林ト云フコトモ必要デアルノデ、林業政策ニ向ッテハ慎重ナ態度ヲ執ッテ居ラレル、私ハ非常ニ宜イコトダト思ヒマス、併シ又燃料問題ノ如キニ至ッテモ、石炭ハ非常ニ褐炭ガ無慮四億「トン」無煙炭ノ如キハ十三億「トン」モアルト云フノニ拘ラズ、僅カニ二百萬「トン」位シカ掘ッテ居ラス、其ノ中半分ハ鐵道デ使フ、ドウモ燃料ノ政策ニ於テモ私ハモウ少シ何トカシナケレバナラナイト云フ私ハ感ジガスル、鑛山ノ方面デハ無論金ノ問題ガアルノデアル、五六千「トン」ヲ掘ルト云フコトハ非常ナ進歩ト思ヒマス、ソコデ進ンデ漁業ノ問題デアリマスガ、是ハ非常ナ長足ノ進歩ヲシテ居ル、漁獲高ニシテモ、製造高ニシテモ九千萬圓ニ達スル、著シイ進歩デアル、サウ云フヤウナ生産、殊ニ原始産業ノ生産額ヲ勘定シテ見マスルト、彼此鑛業ノ九億幾ラト云フモノヲ入レルト、三十億以上ニナラウト思フ、ソレハソレダケノ詰リ朝鮮ノ統治ノ成績モ舉リ、又活力ガ殖エタノデ

アリマスガ、併シ之ヲ人口ニ割當テテ見ルト
ドウナルカ、是ハ私計算ヲシマセヌガ、サ
ウ云フヤウナコトモ今ノ私ノ要求スル範圍
ノ中ニアルノデス、ソレカラ又翻ッテ考ヘテ
見ルト、非常ニ御努力ニナツタ農村經濟更生
ノ問題、是モ進歩ノ著シキコトヲ喜ブモノ
デアリマス、サウスルト云フト生産力ハ多
イ、併シナガラ朝鮮ノ住民ノ一體政費ヲ負
擔スル額ハドウデアル、竝ニ擔稅額ガドウ
デアルカ、サウ云フモノヲ詰リ生産額ニ比
較シテ見タラドウダ、斯ウ云フコトモ、所
謂統治ノ成績竝ニ民度ノ進歩ヲ律スベキ
ツノ物差ト思フ、内地ハ我々共ハ機會アル
毎ニサウ云フ方面ニ注意シテ居リマスガ、
外地ノ統治者ニ於テモサウ云フコトハ斷エ
ズ御考ニナルベキコトト思フ、デマアサウ
云フ譯デ色々其ノ統治ノ成績竝ニ民度ノ進
歩ヲ計ルベキ物差ハ澤山アリマス、私共ガ
考ヘテモ十五六モアラウカト思フ、サウ云
フモノヲ御研究ニナツテ、サウシテ所謂一
目シテ分ルヤウモノヲ御拵ヘニナル必要ガ
アルト私ハ思ッテ居ル、從ッテ拓務關係ニ於
テモ、獨リ朝鮮總督府ニ然ルベキモノヲ調
製シテ戴クノミナラズ、ソレト同時ニ他ノ
外地ニ於テモ、私ハサウ云フモノヲ拵ヘテ、
始終拓務當局ハソレヲ睨ンデ、各外地ノ當

局者ハ又御互ニソレヲ參酌シ、サウシテ統
治ノ成績竝ニ民度ノ進歩ヲ圖ルベキモノダ
ト斯ウ思フ、幸ニシテサウ云フコトニ御同
感デアレバ、一ツ來年ノ問題トシテ今カラ
御考究ニナツテ、然ルベク御調製ヲ願ヒタ
イ、斯ウ思フノデアル、其ノ點ニ付テ御考
ノ程ヲ伺ッテ置キタイ

○政府委員(大野綠一郎君) 只今縷々御示
ノコトニ付キマシテハ、一二斷片的ニ調ベ
タモノモアリマスガ綜合的ナ調ハ致シ
テ居リマセヌ、誠ニ結構ナコトト思ヒ
マスノデ、總督府ニ於キマシテハ調ベテ調
製致シタイト思ヒマス

○男爵久保田敬一君 先日伺ヒマシタ私設
鐵道買收ノコトニ付テ、モウ一言伺ヒタイ
ト思フノデゴザイマスガ、只今迄朝鮮ノ私
設鐵道ヲ可ナリ買收シテオイデニナリマス
ルガ、此ノ只今迄買收サレタ私設鐵道ノ買
收公債ハ、朝鮮事業公債法ニ依テ募債サレ
タノデアリマスガ、又今度ノヤウニ矢張り
單行法デ以テ御出シニナツタンデゴザイマ
スカ

○政府委員(水田直昌君) 今迄買收済ニナ
テ居リマスノガ七線デゴザイマスガ、其ノ
中最後ニ昭和十一年カト記憶シマスガ南朝
鮮鐵道ヲ買收シマシタ、南朝鮮鐵道ノ買收

ノ時ニ、此ノ單行法ガ出タノデアリマシテ、
ソレ以外ノモノハ事業公債法ニ依ッテ買收
致シテ居ルト承知致シテ居リマス

○男爵久保田敬一君 此ノ朝鮮ノ私設鐵道
ヲ買收サレタノハ矢張り朝鮮事業公債ノ中
ニ御含ミニナツテ居リマセウカ

○政府委員(水田直昌君) 事業公債法ニ計
上シテ居リマスル數字ノ中ニ含マレテ居ル
ノデアリマス

○男爵久保田敬一君 サウシマスルト今度
出マシタ此ノ朝鮮鐵道株式會社所屬ノ金泉
慶北安東間鐵道買收ノ爲ニ發行シタ事業公
債ノ此ノ額ト云フモノハ、此ノ朝鮮事業公
債法ノ今度ノ改正ノ中ニ入ッテ居ルノデア
リマスガ、這入ッテ居リマセヌノデスカ

○政府委員(水田直昌君) 入ッテ居リマセ
ヌデゴザイマス

○男爵久保田敬一君 居リマセヌカ、サウ
シマスト是ハ來年デモ又朝鮮事業公債法ノ
改正ヲナサイマシテ、サウシテ此ノ今度ノ
買收ニナツタ公債ヲ其ノ中ニ御含ミニナル
ノデアリマスガ

○政府委員(水田直昌君) 今度提案サレマ
シタ私設鐵道買收ニ關スル公債發行ニ關ス
ル法律案、之ヲ御協賛ヲ得マスレバ幾ラヲ

限度トスルヤト云フコトハ書イテ居リマセ
ヌデシテ、買收シマス時ノ建設費ニ依リマ
シテ計算シテ公債ヲ發行スルコトニナツテ
居リマス、ソレハ此ノ事業公債法ノ中ニハ
加算致シマス

○子爵秋元春朝君 今ノ買收ニ關聯シテ伺
ヒマスガ、公債ハ、買收爲サル時ノ時期ノ
如何ニ依リマセウガ、凡ソドノ位ノ豫定額
デゴザイマスガ、買收價格ハ、私設鐵道
ノ……

○政府委員(水田直昌君) 買收ノ時ニ於キ
マスル建設費ヲ以テ買收價格ノ豫定トスル
コトニ考ヘテ居リマス、從ヒマシテ其ノ時
迄ニハ現在ノ建設費以上ニ更ニドレダケ私
設鐵道ノ方デ加ヘマスガ、的確ノ計畫ハ申
上ゲ兼ねマスガ、大體現在ノ狀況デ見マス
ルト、買收ノ時價ニ於キマシテハ八百二十
四萬圓餘ノ建設費ニナラウカト存ジマスル、
ソレニ對シマシテ三分半ノ公債デ還元シタ
モノヲ以テ、其ノ公債ノ額面ヲ交付スルト
云フコトニ相成リマス

○子爵秋元春朝君 其ノ計算方法ヤ何カト
云フモノハ、鐵道省デヤル内地ノ鐵道ノ買
收スルノト同ジノモノデアリマスガ、特別
ノ計算法デモアリマスガ

○政府委員(水田直昌君) 建設費ヲ基本致

シマシテ、公債額面ヲ幾ラヤルカト云フコトハ、内地ノ方ト同ジヤリ方デ計算ヲスルコトニナツテ居リマス

○侯爵大炊御門經輝君 質問デハナイノデアリマス、チヨット希望ヲ述べマス、前會ニ朝鮮ニ於ケル金ノ増産計畫ヲ伺ヒマシテ、計畫ガ略、計畫通りニ實行サレテ居ルト伺ヒマシタガ、人及資材ナドノ點デ兎角増産計畫ト云フモノハナカク思フ通り實行サレナイノデアリマスガ、ソレガ非常ニウマク行ッテ居ルト云フコトハ當局ノ非常ニ御努力ノコトト考ヘマス、但シ増産計畫ト云フコトハ、兎角民間側ト摩擦ノ起リ易イ事柄デゴザイマス、今後人、資材サウ云フ總テノ點ニ於テ圓滿ニ計畫ノ遂行サレムコトヲ希望致シマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) 御質問ハモウゴザイマセスカ、朝鮮事業公債法中改正法律案外二件ニ對スル御質問ハ、是デ終了シタモノト認メマシテ宜シウゴザイマスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ終了致シマシタ、暫ク休憩致シマス

午後二時六分休憩

午後二時三十五分開會

○委員長(伯爵堀田正恒君) 是ヨリ開會致

シマス

○男爵福原俊九君 私ハ樺太ニ對シテ誠ニ知識ガナイノデ、實ハ此ノ機會ニ石炭ト石油ノ模様ヲ概略的ニ御話ヲ承リタイト思フ、デ昨今北樺太ノ話ヲ聞キマスト云フト、北樺太ニ於ケル石炭、殊ニ石油ノ如キモノハ、非常ニ研究ノ結果多クナツタト云フ話ヲ聞イテ居ルノデ、最近話リ日本領ノ樺太ニ於ケル石炭、石油、サウ云フモノノ分布狀態、又殊ニ石油ノ如キハデスネ、今日デモ、今迄石油ハ餘リナイト云フノガ近頃ハ日本ノ北海岸何處デモ石油ガ出ルヤウニ云ハレテ居ルノデ、サウ云フコトニ對シテ樺太應デ御調ニナツテ居レバ、サウ云フヤウナコトモ一通リ此ノ機會ニ御話ヲ承ルト私ハ結構ト思ヒマス

○政府委員(樺居俊一君) 只今御話ニナリマシタ樺太ニ於キマスル石炭及石油ノ保存ノ狀況乃至現在ノ事業ノ狀況ノ一般ニ付キマシテ極メテ簡單ニ御答ヘ致シマス、石炭ハ樺太ノ資源ノ中デモ最近最モ囑望サレテ居ルモノデアリマシテ、大體只今迄調査致シマシタ程度デハ、南樺太ニ約二十億「トン」ノ埋藏量ガアルモノデアル、斯様ニ推定ヲ致シテ居リマス、其ノ中デ此ノ問題ニナリマシタ封鎖炭田内ニ埋藏サレテ居リマ

スルモノガ十一億六千萬「トン」、民有炭田ニ屬シテ居リマスルモノガ大體八億二千八百萬「トン」合計致シマシテ二十萬「トン」ト云フコトニ概算ヲ致シテ居リマス、マア大體半分々々、封鎖炭田ガ半分ト民有炭田ガ半分ト斯ウ云フ風ニ御考ヘ下サツテ差支ナイト思ヒマス、大體十萬「トン」内外デアリマス、封鎖炭田ハ現在ハ三箇所バカリ民間ニ開封致シマシテ事業ヲヤラシテ居リマスルガ、マダ其ノ開發ノ程度ハ極メテ微々タルモノデアリマシテ、將來大イニ之ヲ開發スル計畫ヲ樹テナケレバナラス、斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマス、民有炭田ノ方ハ、數年前迄ハ殆ド其ノ出炭量モ微々タルモノデアリマシテ、漸ク昭和十年ニナリマシテ百五十萬「トン」ヲ產出スル、爾來段々殖エテ參リマシテ、昨年ニ於キマシテハ大體三百二十萬「トン」ハ出テ居ルガラウ、斯様ニ考ヘテ居リマスシ、本年ハ五百萬臺ニハ上ルガラウ、更ニ進ミマシテ昭和十六年頃ニハ七百萬臺ニ上ルデアラウ、行ク／＼ハ千萬臺ニ迄之ヲ上ボスト云フ豫定デ、業者トモ種々協議ヲ遂ゲマシテ、只今計畫ヲ進メテ居リマス譯デアリマス、行ク／＼ハ千萬「トン」石炭ヲ樺太カラ產出スルト云フ目標ヲ樹テテ居リマスガ、只今ノ所ハ精炭ト

致シマシテ島内ノ需要ニ充テマスル外ニ、内地ノ方ニモ輸送致シテ居リマス、唯南部ノ封鎖炭田ノ一部ニ内幌ト云フ所ガアリマスガ、此處デ三菱礦業ガ傍系ノ會社ヲ作りマシテ、現在低溫乾溜ニ依ル液化事業ヲ昭和十年カラ著手ヲ致シテ、此ノ前ノ委員會デモ一言御答ヘ申上ゲマシタヤウニ、今年ハ十九萬五千「トン」ノ原料炭ヲ處理致スコトニナツテ居リマスシ、十四年カラ二十五萬「トン」ノ石炭ヲ處理致シテ、揮發油及重油ヲ抽出精製スルト云フコトニナツテ居リマス、只今ノ所デハ燃料炭或ハ製鐵所ノ「コークス」炭以外ノ方面トシテ、液化事業ニハ一箇所ニ利用シテ居ルト云フ狀態デアリマス、何シロ二十億萬「トン」ニ達シマスル埋藏量ヲ持ッテ居リマス石炭デアリマスカラ、將來種種ノ方面カラ樺太ノ石炭ガ利用サレルノデハナイカト云フコトヲ實ハ期待致シテ居リマス次第デアリマス、此ノ度封鎖炭田ノ一部ヲ開封致シマシテ、此處ニ人造石油事業ヲ誘致致シタイト云フコトヲ思ヒ付キマシタノモ、ソレハ樺太ニハ非常ニ液化ニ適シテ居ル石炭ガアリマスルシ、而モ一箇所ニ比較的纏ッタ埋藏量ノ炭田ガアリマスルノデ、斯ウ云フ種々ノ點カラ致シマシテ、此處ニ液化事業ヲ起スト云フコトガ策ヲ得タ

モノデナイカ、斯様ナ想定ノ下ニ種々打合

ス

セヲ進メテ參リマシテ、此ノ度ノ法律ノ改正モ左様ナ心持ノ下ニ、實ハ御協賛ヲ御願ヒ致シタイト考ヘテ居ル次第アリマス、樺太石炭ハ將來ハ非常ニ有望デハナイカ、斯様ニ我々ト致シマシテハ考ヘテ居リマス、併シ動力、技術、資材、或ハ輸送ノ關係等カラ必ズシモ思フヤウナ風ニ開發サレマセヌ實情ニアリマスノデ、是等ノ點ニ付キマシテハ、マダ十分我々モ努力シナケレバナラヌカト考ヘテ居リマスガ、大體相當ニ將來樺太ノ石炭ト云フモノハ著目セラレテ宜イモノデハナイカト考ヘテ居リマス、尙石油ノコトニ付キマシテハ、我々モ樺太カラ石油ガ出レバ非常ニ仕合セデアリマスルカラ、昭和四年以來油田地帯ノ調査ヲ致シマシテ、大體油田地帯ト云フモノノ見當ハ付キマシタ、八箇所バカリ大凡ノ見當ヲ付ケマシテ、只今迄ニ試掘致シマシタ場所ガ八箇所、現在試掘致シテ居リマス場所ガ二箇所アリマスルガ、今迄ノ所ハ何レモマダ多少ノ湧水ハ認メマスルケレドモ、石油ガ出ルト云フ迄ニ至ッテ居リマセヌ、併シ引續キマシテ毎年豫算ヲ組ミマシテ、補助ヲ致シテ試掘ヲ進メタイト、斯様ニ考ヘテ居リマス、現在ノ所デハマダ成功致シテ居リマセ

○男爵福原俊九君 今大體ノ御話ヲ承リマシタガ、此ノ石炭ハ非常ニ有望デアルト云フ御話デアアルデアリマスガ、此ノ石炭ノ質ハ、一體内地ノ何處アタリノニ大體匹敵シテ居リマスガ、朝鮮ノ石炭ト樺太ノ石炭トノ優劣、是ハ何處カデ聞イタヤウニ思ヒマスガ、將來此ノ樺太ノ石炭ヲ朝鮮ヘ持ッテ行ッテ、其ノ歸リニ朝鮮ノ茂山鐵礦ヲ持ッテ來テ製鐵所ニ送ルト云フヤウナ話ヲ聞キマシタガ、無論茂山鐵礦ハ貧鐵デアアルケレドモ、非常ニ多イデアリマスカラシテ、石炭ガ最モ製鐵上適シテ居レバソレモ一ツノ最モ好イ方法ト思ヒマスガ、サウ云フ點ニ對シテ御調ガアレバ承リタイト思ヒマス

○政府委員(棟居俊一君) 只今迄調べマシタ所デハ、封鎖炭田カラ申上ゲマスガ、北部封鎖炭田ガ二ツアリマスルガ、何レモ黒褐炭デアリマシテ、不粘結性ノモノデ、大體是ハ液化ニ適シタモノデアラウト考ヘテ居リマスノデ、ソレカラ中部ノ封鎖炭田ハ瀝青炭デアリマシテ、此處ニ矢張り二ツ炭田ヲ擁シテ居リマス、不粘結性ノ液化ニ適シマスル部分ト、稍、粘結性デ液化以外ノ用途ニヨリ以上適シテ居ルモノトアリマスデアリマシテ、ソレカラ南部ノ方ノ封鎖譯

炭田ハ瀝青炭ト黒褐炭ト混同サレテ居ルノデアリマスルガ、瀝青炭ノ方ハ稍、粘結性ニ富ンデ居リマシテ、是ハマア動力其ノ他ノ用途ニ供セラレルノデハナイカ、ソレカラ黒褐炭ノ方ハ不粘結性ノモノデアリマシテ液化ニ適シテ居ル、大體封鎖炭田ハ北、中、南部ヲ通ジマシテ液化ニ適スル石炭ガ多イデアリマス、殘ル約十萬トシノ民有炭田ハ種々ノ炭質ノモノヲ含ンデ居リマスルガ、最モ現在盛シニ採掘サレテ居リマスル北部ノ西海岸國境カラズツ下リマシテ惠須取ト云フ所ガアリマスガ、其ノ附近ニ至リマス迄ノ一帯ハ、現在最モ盛シニ事業ガ經營サレテ居ルノデアリマス、此ノ方面ハ一部燃料炭デアリマスルガ、一部ハ最モ粘結性ニ富ンデ居リマスノデ、製鐵所ノ原料炭ニ好適デアル、斯様ニ考ヘテ居リマス、斯様ナ調査ニナッテ居ルノデアリマシテ、内地ノ石炭ニ比ベテ見マス、中部方面ハタ張炭或ハ空知炭、ソレカラ東海岸ノ方面ノ一部トシテハ常磐炭等ニ大體似テ居ルノデナイカト考ヘマス、ケーキングコールト致シテ、内地ノ何レノ方面ニ當リマスガ、餘リ似タノハナイノデハナイカト思ヒマス

○男爵福原俊九君 サウシマス、今ノ朝鮮炭ト比較ラシマス、朝鮮炭ハ風化シ易イモノデ、北朝鮮ニハ非常ニ石炭ハ多イケレドモ、ドツチカト言フト遠方ヘ持ッテ行クコトハムツカシイト思フノデスガ、樺太ノモノハ相當ニ遠方ヘ出シテ行ッテモ風化セズ、詰リ簡單ニ言ヘバ朝鮮炭ヨリ餘程質ガ好イ譯デスネ

○政府委員(棟居俊一君) 北部ノ封鎖炭田ノ石炭ハ、南方ノ封鎖炭田ノ石炭ノ一部トシテ矢張り風化シ易イ性質ノモノデアリマシテ、朝鮮ノ北鮮方面ノ石炭ニ稍、似テ居リマス、是ハ矢張り内地ノ方面ニ送リマシテ燃料ニ供シマスヨリモ、此處デ低溫乾溜等ニ利用シタ方ガ宜クハナイカ、斯様ニ我々トシテハ實ハ考ヘテ居リマス

○男爵福原俊九君 尙之ニ關聯シマシテ御尋ネシテ置キタイノハ、サウスルト大體朝鮮ノ石炭ハ、液化又ハ石炭トシテ出ス將來性ハ非常ニ大キナモノデアルヤウニ思ハレマスガ、ソレノ大體輸出スル港灣ノ設備ハドンナ風ニナッテ居リマスガ、相當ニ其ノ港灣ニ對シテハ、ソレモ考ヘラレテ計畫シテオイデニナルコトト思ヒマスガ、現在ハドウ云フ風ニ、何處ヲ主ニシテ、又鐵道モ是ハ矢張り將來ハ大分敷カナケレバナラヌカト思フケレドモ、併シ鐵道ト云ッテモ幅ガ狭イモノデスカラシテ、無論海運デヤルベキ

モノダト思ヒマスガ、其ノ點ニ對シテ聯關シテ御聽キ致シマス

○政府委員(棟居俊一君) 現在迄ノ所ハ、特ニ石炭ノ積出用トシテノ設備ヲ具ヘテ居リマスル港灣ハ、僅カニ大泊港ガ、川上炭ヲ内地方面ニ輸送致シマスル爲ニ極メテ小規模ノ積出設備ヲ持ッテ居ルダケデアリマシテ、其ノ他ハ極メテ貧弱ナル棧橋等ニ依リマシテ沖積ノ方法ヲ執ッテ居リマス、併シ現在ノヤウニ非常ニ大量ナ石炭ガ、殊ニ北部方面カラ出テ参リマスノデ、向フ數年間ニハ、此ノ惠須取ヲ中心ト致シマシテ四五百萬「トン」ノ石炭ハ出ルダラウト思ッテ居リマス、又其ノ計畫ヲ現在進メテ居リマス、從ヒマシテドウシテモ此ノ惠須取ニ石炭積出ノ特殊ノ設備ヲ持ッテ港ヲ造ラナケレバナナイノデハナカラウカ、斯様ナ風ニ二三年前カラ既ニ研究ガ始メラレテ居リマシテ、十四年度ノ豫算ニハ、惠須取ニ五箇年間ノ豫定ヲ以チマシテ石炭其ノ他ノ貨物四百萬「トン」ヲ吞吐シ得ル港灣ヲ造ル、總工費七百萬圓デアリマス、計畫ヲ立テマシテ御協賛ヲ得ルコトニ致シテ居ル譯デアリマス、鐵道ノ方ハ是亦甚ダ遅時キデアリマスルケレドモ、惠須取ニ迄、南ノ方カラ延ビテ行ク鐵道ヲ、昭和十八年度

迄ニ完成ヲ致スト云フコトニ致シテ居リマス譯デアリマス、尙大泊モ、將來石炭ノ移出ノ狀況ニ依リマシテ若干ノ擴充ヲ致サナケレバナラスカト、斯様ニ考ヘテ居リマス、併シ樺太ハ幸ニ石炭炭礦ト海岸トノ距離ガ非常ニ短イノデアリマス、皆殆ド此ノ中部炭田ヲ除キマシテハ海岸ニズツ沿ウテ炭田ガ列ンデ居リマス、二三里位ノ所ニズツ炭田ガ列ンデ居リマシテ、モウ極メテ簡單ニ海岸ニ迄軌道ヲ持ッテ参リマシテ、其處カラ解直グ本船ニ積込ム、大體四月カラ十一月頃迄ハ沖取デ、時ニ依リマスト一日五千「トン」位積ンデ居リマス、併シ冬ガ困リマスノデ、冬ノ輸送設備ヲドウシテモシナクチャナラス、冬貯炭ヲシテ、内地ノ方ノ需要ニ應ジ得ナイト云フコトデハ、折角ノ値取港ノ修築ノ目標ハ、冬主トシテ此處カラ石炭ヲ出シテ行カウト云フコトニ致シテ居リマスノデアリマス、サウ致シマスレバ將來此ノ方面カラ五百萬「トン」以上ノ石炭ガ產出サレマシテモ、船腹サヘ得ラレマスナラバ積出シソレ自身ニハ不便ガナイト、斯様ニ我々ト致シマシテハ想定ヲ致シテ居リマス

○男爵福原俊九君 オ序ニ、丁度惠須取ノ

反對側、東側ノ敷香、敷香ノ確カ人造絹絲工場ガアル王子製紙系ノ……、此ノ敷香ノ附近モ北部ノ封鎖炭田ニ近イノダガ、此ノ封鎖炭田ハ風化スルカラ、矢張り仕事ハ何カ低溫乾溜ナリ石炭液化ナリシナケレバナラスト思ヒマスガ、敷香ノ方面ハ是ハ鐵道ハ、此ノ圖面デ見ルト繫ッテ居リマセヌガ、是ハ現在繫ガレツ、アルノデスカ、ソレカラ敷香ノ港ノ模様ヲ……、敷香ハ將來非常ニ工場ガ興ル所ニナリハセスカト思ヒマスガ、其ノ點モオ序ニ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(棟居俊一君) 此ノ御配リ致シマシタ圖面ガ少シ古い地圖ヲ其ノ儘利用致シマシタノデ、實ハ敷香迄ハ鐵道線ガ出來テ居リマス、敷香カラ更ニズツ國境ノ方ニ現在延ス豫定ヲシテ工事ニ著手致シテ居リマス、尙此ノ封鎖炭田ヲ開封致シマシテ、内川デ目下三井鑛山ガ事業ヲヤッテ居リマスルガ、是ハ先程申上ゲマシタヤウナ風化シ易イ、餘リ良クナイ石炭デアリマスルカラシテ、地元デ使フコトニ致シマシテ、只今御述ニナリマシタ王子系統ノ人絹工場デ專ラ用ヒテ居リマス、尙一部ハ地元デ家庭用炭ニ使ッテ居リマス、隨ッテ此處カラ大量ニ内地ヘ輸送スル設備ハ只今ノ所デハ餘リ

必要ガナイデハナイカト考ヘテ居リマス

○男爵福原俊九君 サウシマスト敷香デ出來タ所ノ生産物ハ、鐵道デ大泊迄持ッテ行ク譯デスネ

○政府委員(棟居俊一君) 冬ハ船ガ利用出來マセヌノデ、鐵道デ「パルプ」等ハ大泊迄持ッテ参リマス、夏ハモウ敷香デ其ノ儘本船ニ積ミマシテ内地方面ニ持ッテ参リマス

○男爵福原俊九君 敷香ノ港ハ、ドノ位ノ船迄ガ今著クヤウニナッテ居リマスカ

○政府委員(棟居俊一君) 只今ハ殆ド敷香ニハ港灣設備ヲ致シテ居リマセヌノデ、而モ其處ニハ「ロシア」領カラ流レテ参リマスル幌内川ト云フ川ガアリマシテ、盛ニ砂ヲ流シマスノデ、此處ニ港灣ヲ修築致シマスルコトハ技術上非常ニムツカシイノデ、樺太廳ト致シマシテハ、是ハ最後ニ殘シテ居リマス、從ヒマシテ夏ハ本船ハ相當沖ヘ繫リマシテ、解デ皆物資ヲ積卸シ致シテ居リマス、現在ハ四五千噸ノ船ハ一向差支ナク沖繫リヲ致シテ居リマス

○男爵福原俊九君 ソレカラ尙引續キ、是ハ少シ間接ニナリマスガ、今度ノ此ノ樺太封鎖炭ヲ使ッテ液體燃料ヲ造ラウトシテ居ルノハ帝國燃料會社ノヤウニ承ッテ居リマスガ、帝國燃料會社ハ一昨年出來テ、現在

ドウ云フヤウニ事業ガ行ッテ居リマスカ、其ノ帝國燃料會社ノ事業ノ一ツトシテ此處ニヤラレト、帝國燃料會社ハ此ノ外ニ何處ヲヤッテ居ルカ、此ノ樺太ニ對シテハドノ位ノ將來ノ計畫ヲ以テヤル積リデアルカ、其ノ點ヲ一ツ御説明願ヒタイ

○政府委員(小島新二君) 今帝國燃料興業株式會社ノ事業計畫ニ付キマシテ御尋ガアリマシタノデ私カラ御答ヲ致シマス、帝國燃料興業株式會社ハ、昨年ノ一月十九日ニ新設ニ相成リマシテ、只今二千萬圓ノ拂込資本金、二千萬圓ノ社債ヲ以チマシテ、日滿ニ於キマスル人造石油製造會社ニ對シマシテ投資ヲ致シテ居リマシテ、昭和十三年度ニ於キマスル投資決定額ハ六千二百五十萬圓ニ相成ッテ居リマス、其ノ投資ヲ致シテ居リマスル會社ハ、先般設立ヲ見マシタ北海道人造石油會社ヲ主ト致シマシテ、三菱石炭油化工業會社、日本油化工業會社、日產液體燃料會社ト、ソレカラ滿洲ニ於キマスル滿洲合成燃料會社、是等ニ資本ヲ投ズルコトニ相成リマシタ、而シテ樺太ニ於キマスル封鎖炭田ノ開封ニ依リマシテ、大體只今ノ第一期ノ計畫ト致シマシテハ、年產百二十萬「トン」ノ採炭ニ依リマシテ、二十三萬「キロ」ノ石油ヲ、製造致ス計畫デゴザイマ

ス、之ニ要シマスル資金ハ一億二千萬圓見當ヲ要スル見込デゴザイマスガ、差當リト致シマシテ四千萬圓程度ノ帝燃ノ子會社ヲ作りマシテ、石炭ノ開發並ニ工場設置ニ付テノ施設ヲ致シテ參ル目論見ヲ致シテ居リマス、而シテ昭和十六年頃ヨリ三十萬見當ノ採炭ヲナシ、昭和十七年ニ於キマシテハ低溫乾溜法及ビ「ダール」ニ水素添加ヲ致シマスル方法ニ依リマシテ工場ノ一部ヲ運轉致シ、昭和十八年ニ於キマシテハ工場全部、詰リ低溫乾溜法、「ダール」ニ水素添加致シマスル方法及ビ石炭ニ直接水素ヲ添加致シマスル方法、此ノ三方法ヲ全部運轉致シマシテ、前述豫定ノ人造石油ノ製造ヲナス計畫ニ相成ッテ居リマス、固ヨリ樺太ニ於キマスル石炭液化ニ適當スル石炭ノ量ハ、更ニ莫大ナルモノガゴザイマス、デアリマスカラ今後更ニ人造石油事業ノ進捗ニ伴ヒマシテ、第二期ノ人造石油製造計畫ヲ進メルコトト相成ルモノト考ヘテ居リマス、大體以上ノヤウナ次第デゴザイマス

○男爵福原俊九君 サウ致シマスト、詰リ此ノ法案ハ、今度出來ル會社ニ持ッテ行ッテ競争入札ニ付サズニ、樺太廳決メラレタ値段デ渡スト云フ譯デアリマスカラ、サウスト其ノ價格ヲ決メル方法ハドウ云フ風

ニシテ、ドウ云フ標準デ御決メニナルノデスカ、詰リ石炭液化ハ相當ニ高イコトニナルノデスカ、一面斯ウ云フ非常時デアレバ高クテモドン／＼使ハレマスケレドモ、平時ニナッテ來ルト云フト、矢張り高ケレバ賣レヌト云フコトニナルシ、ダカラドウシタツテ石炭ノ價格ヲ安クシテヤラナケレバナラヌト云フコトニナリマスカラシテ、殊ニ將來ノコトハ分ラヌケレドモ、若シ天然石油ガ内地ニ於テドン／＼試掘ノ結果出ルヤウニナレバ、益、石炭液化ノ方ハ不振ニナル譯デスカ、サウ云フコトニ對シテ大體ドンナ風ニシテ御決メニナルカ、總テ樺太廳ノ中デ決メラレルノカ、或ハ相當ヲ決メラレル方法ヲ何カモウ少シ検討サレテヤラレルノカ、唯樺太廳ニ於ケル事務官其ノ他ノ人ガ決メラレルノデスカ、其ノ點ニ對シテ極ク概略デ宜シウゴザイマスカラ御考ヲ聽イテ置キタイ

○政府委員(棟居俊一君) 採掘料ノ決定ニ付キマシテハ、種々ノ方面カラ研究ヲ致ス必要ガアラウト考ヘルノデアリマスガ、從來現行法ノ建前ニ於キマシテモ、豫メ樺太廳デハ競争入札ニ附シマスル際ニ豫定價格ヲ立テマシテ、其ノ豫定價格以上ノ入札者ノ中デ最高ノ入札者ニ結局落札スルコト

ニ致シテ居リマスノデ、結局豫定價格ヲ如何ニ定メルカト云フコトニ相成ル譯デアリマス、將來此ノ改正規定ニ依リマシテ樺太廳ガ採掘料ヲ定メマスル場合ニ於テモ、大體從來ノ豫定價格ノ決メ方ト同ジヤウナ建前デ決メルノガ妥當デハナイカト考ヘテ居リマスガ、人造石油製造ニ付キマシテハ、成ルベク其ノ「コスト」ヲ安クシナケレバナラヌコトハ當然デアリマスカラシテ、採掘料モ成ルベクンバ之ヲ安ク致シタイト云フコトハ我々モ希望致シテ居リマスガ、併シ特ニ變則的ナ取扱ヲシテ迄モ低廉ナ採掘料ヲ定メテ許可ヲ致シマスルコトハ必ズシモ適正デハナイ、斯様ニ考ヘマスルノデ、一應採掘料ハ矢張り妥當ナル所ニ決メナケレバナラス、其ノ決メ方ニ付キマシテハ、色々ノ決メ方アラウト考ヘマスガ、非常ニ細カク其ノ要素ト申シマスカ色々ノ事情ヲ參酌致シマスルトスレバ、例ヘバ鑛區ノ位置

デアルトカ、面積デアルトカ、炭質デアルトカ、或ハ炭量デアルトカ、其ノ當時ノ炭價、石炭ノ生産費、從ヒマシテ利益、更ニ一年ノ採炭高、ソレカラ操業日數或ハ企業費ト云フ風ナモノヲ悉ク見ナケレバナラスト思ヒマスガ、普通此ノ炭山等ノ賣買ノ際ニ業者ガ據ッテ居リマスル標準ノ主ナル豫

想ハ、其ノ鑛區ノ地理的状況、面積、ソレニ石炭質、炭量ト云フモノト考ヘテ居リマス、是等ノモノニ依ッテ炭山ノ値段ヲ決メテ居リマス譯デアリマス、從來モ矢張り封鎖炭田内ノ一部ノ炭田ヲ開封致シマスル際ニハ、是等ノ状況ノ下ニ大體定價格ヲ決メテ居リマシタノデアリマス、アア私ハ餘リ専門的ノコトハ心得ヌノデアリマスガ、ホスコルド」公式ト申シマスルモノガ實際ニ於テ用ヒラレテ居リマスヤウデアリマスガ、此ノ方法ヲ決メルコトニ相成ラウカト考ヘマス

○男爵福原俊九君 イヤ、從來デモ此ノ豫定價格ヲ御決メニナルノハ、色々「データー」ヲ御集メニナッテ御ヤリニナッテ居ルト信ジテ居リマスガ、斯ウ云フ特別ナ改正ヲスルニハ、要スルニ人造石油業デアルカラ特ニ其ノ發達ヲ圖リ、將來日本ノ需要ヲ十分ニ充ス迄ニ、天然石油ノ外ニ人造石油ヲ多量ニ作ラウト云フ大イナル意味ニ於テ國家的事業トシテ國家ガ助ケテヤルト云フヤウナ意味ガ含ンデ居ルト思フ、ソレデスカラ帝國燃料會社ノ時ニモ我々承ッテ居ル、現在ノ計畫ノ人造石油ダケデハ、十年先ニナッテモヤツト追付ク位ノ所デ、ナカ／＼十年先迄ノ需要量ニ對シテハ間ニ合ハスト云フ

ヤウナ程度デアルカラ、斯ウ云フ多量ノ炭ガアル所デハ將來此ノ事業ガ成立ッテ行ッテ、サウシテ一方ニ於テハ今日ハマダ人造石油ノ技術ガ不十分デアル、ソレヲ研究シ、改良シテ行ッテ本當ニ優秀ナルモノヲ出スヤウニサレル所迄助ケテヤラナケレバナラス其ノ爲ニハ樺太廳トシテ、即チ國家トシテハ損ヲシナケレバ、或程度迄ハ今日迄ノヤウナ豫定額ヲ極メラレル標準ヨリモ、其ノ仕事其ノモノニ對シテ其ノ仕事ガ將來發展出來ルヤウニ成立ッテ行クヤウナ所迄策シテヤラナケレバナラス、國家ガ損ヲシテヤル譯ニモ行クマイト思フガ、茲ニ私共御伺ビシタイノハ、競争入札デスレバ會社自體ガ自分カラ是位ナラバヤレト云フ所デ出ス、又少々高クテモ已ムヲ得ズ取ッテ、サウシテソレニ對シテハ他ノ事業ヲスルナリ、何ナリシテ合ハスヤウニスル、唯樺太廳ト當事者トノ話合ヒデ極メルト云フコトニナルト、サウ云フ點ガ非常ニムヅカシイノデハナイカト思フ、私共ハ今言ツタヤウニ隨意契約ニサレルコトハ御尤デ賛成デアルケレドモ、將來ニ對シテ此ノ石油事業ノ不振ニナツタ時ニ、ドウモ樺太廳デハ、矢張り是ハ樺太廳ノ歲入ニ計上サレル譯デスカラ、此ノ石炭カラ來タ所ノ收入ハ、ソレデスカ

ラサウ云フ點ニ對シテ此ノ際此處迄行ケバ相當ニ踏込ンデ事業ヲ助ケテヤルト云フ所迄行カナケレバナラスト思フ、處デ最近ハ斯ウ云フ非常時ノ狀態デアリマスカラシテ、モウ石油トカ、鐵トカ、サウ云フヤウナ軍需品ニ對スルモノハ、モウ構ハズ便宜ヲ與ヘテヤルト云フコトニナッテ居リ、又一方ソレヲヤル産業會社、即チ帝燃ノ如キハ半官半民デアルシ、今ノ所デハ一生懸命ニナッテ居ルケレドモ、先ニナルト他力本願ニナッテ矢張り政府ニ頼ルト云フコトニナッテ、自分デ苦シイ時ニハ如何ニシテ其ノ會社ノ困難ヲ凌イデ行クカト云フコトガ、兎角努力ガ足ラヌヤウナコトニナル傾向ガアル譯デスカラ、ソレデ今私御尋ネシタイノハ、何處迄斯ウ云フ事業ニ對シテ樺太廳ハ助ケテヤルカ、ソレニ對スル當局ノ御考ヲ今少シ承ッテ見タイト思ヒマス

○政府委員(棟居俊一君) 此ノ度ノ改正ノ隠レタ眼目トデモ申上ゲマスモノハ、全ク封鎖炭田ノ石炭ヲ原料ト致シマシテ、茲ニ人造石油事業ヲ起スコトニアルノデアリマスガ、表面ノ改正ノ理由ハ、結局今迄ノ建前デハ、總テ競争入札ノ方法ニ依ッテ居リマス關係上、樺太廳ト致シマシテハ、假ニ採掘料ヲマア五錢ト豫定致シマシテ、其ノ程度ナラバ落札、ソレ以上ナラバ其ノ最高ノ落札者ニ許可ヲ致ス次第デアリマスルガ、假ニ五錢ト決メテ居リマシテモ、從來ノ方法ニ依リマスルト、業者ガ何人カ集リマシテ競争致シマスル譯デアリマスカラシテ、自分ニ落シタイト云フ希望ガアリマスル限りハ、業者ノ腹ノ中デ御互ニ暗中摸索致シマシテ、結局段々ト糶上ゲテ、サウシテ高イ所デ自分ノモノニシタイ、現ニ昭和七年ニ南部ノ封鎖炭田ノ内幌ノ炭田ヲ開封致シマシタ際ノ如キハ、樺太廳ノ豫定價格ヲ打明ケテ申シマスレバ、噸當リ五錢デアッタノデアリマスガ、然ルニ實際ノ入札ニナリマスルト、最低ガ五十三錢最高ガ一圓デ、結局最高ノ三菱鑛業ニ落札致シマシタガ、五錢ノ豫定價格ガ一圓ノ落札ニ決定シタ、斯様ナコトニナリマスルト、現在ノ如キ石炭ノ需給ノ状況デハ、益々高イ値段デ競争入札ヲスルト、假ニ人造石油會社ガ樺太ニ創設サレマシテ、此ノ競争入札ニ今ノ儘ノ建前デ加ハリマスルト、到底對抗出來ナイノデヤナイカト思フノデアリマス、一方ハ儲カラヌ事業デアリマスカラ成ルベク「コスト」ヲ安くシタイ、又一方有力ナ會社ガ澤山參加致シマスコトガ想像サレマスノデ、一圓ガ二圓ニナルト云フコトモ考ヘラレマスノデ、斯

様ナ建前デアルト、到底液化事業ハ封鎖炭田内ニ於テハ興リ得ナイト考ヘマス、先刻モ申上ゲマシタ通り、大量ノ液化ニ適スル優良ナル石炭ガアリマスノデ、是ハドウシテモ現在ノ状況カラ申シマスレバ、國策ノ命ジマス儘ニ、ドウシテモ茲ニ液化事業ヲ興スト云フコトガ必要デアル、樺太ノ爲ニモ國家ノ爲ニモ必要デアル、斯様ニ考ヘマスノデ、ドウシテモ何カ法律ノ改正ニ依ッテ便法ヲ與ヘテヤラナケレバナラス、結局競争入札ニ對スル例外的ノ取扱ヲシテヤルト云フコトニ歸著スルノデアリマス、ソレデ行政官廳ガ妥當適正トスル所ノ料金ヲ定メテ、許可ヲシテヤル、殊ニ人造石油ノ事業ハ政府ノ許可事業ニモナッテ居リマスカラ、十分内部的ニ檢討ヲ遂ゲマシテ、此ノ會社ナラバ宜イト云フコトニナリマスレバ、行政官廳デ許可シテヤルト云フ建前ニ致シマスレバ、競争ヲ排除スルコトニナリマシテ、堅實ノ企業ノ基礎モ出來マスシ、事業ノ豫定モ案外樂ニナリマスカラ其ノ建前ガ最モ宜イノデハナイカ、斯様ニ考ヘテ居リマス

○男爵福原俊九君 競争入札ノ弊害ハ、ソレハ總テノ問題ニ……相當ニ私共承知シテ居リマスガ、今ノ實際ノ御話ヲ實ハ初メテ

承リマシタガ、私ハ競争入札ノ方法ニ依リ、例ヘバ五錢ノモノヲ一圓……非常ニ何カノ事情デサウナッタデセウガ、最低ト最高トヲ大體決メテ置イテ、其ノ間デ以テ競争サシテ居レバ、例ヘバ政府ノ價額ガ五錢デアリ、豫定價額ヲ五錢トシテ、今ハ一圓トナッタガ、ソレヲ私ハ最低一錢五厘最高ヲ五錢五厘トカ云フ風ニシテヤレバ、其ノ間ニ五厘カソコヲ違フカモ知レマセヌガ、一錢位ハ違フカモ知レナイケレドモ、ソレ程ノ、今言フヤウナ弊害ハ起ルマイト思ヒマス、又總督府ニシテモ、何モ今ノヤウナ五錢ノ、豫定價額ガ收入ヲ定メラレテ居ルノダカラ、ソレガ十錢、二十錢、一圓ニナッテモ、收入ノ多イコトハソレハ宜イデスガ、別ニ差當リ歳入ノ金額ノ上ニ於テ非常ニ損害ガ來ナイ譯デスガ、サウ云フヤウナ一ツ方法ヲ採ッテ競争入札ニサセル譯ニハ參リマセヌカ、私ハ競争入札ト云フコトハ、スル者自體ガ決メルノデ、ソレデ今ノ話合ヲ決メルト、ドウシテモ政府ノ方ニ頼ルコトニナル、觀念ノ問題デアリマスケレドモ、サウ云フ點ガ將來仕事ニ及ス影響ガドウカト云フ感ジガスルノデスガ……ソレカラ殊ニ樺太ハ從來木材問題デハナカノ、色々ナ問題ガ政黨ノ眞ニ盛ナ時

代ニハ、色々ノ誤ガアッタノデアルカラシテ、成ルベク話合ヲ決メルト云フコトハ餘リ面白クナイト思フ、併シナガラ今私トシテハソレニ對シテ不賛成デナイ、寧ろ是迄ヤレバ政府ノ豫算ハ五錢デアッテモ、實際石炭液化ノ仕事ノ上ニ於テ、ソレデハ迎モ行カスト云ヘバ、一ツウント下ゲテ、サウシテ一方御仕事ノ方ヲ監督シテヤルナリ、仕事ノ本當ニ成立ツヤウニシテヤル所迄樺太廳、即チ國家ガ援ケテヤルト云フ所迄行カナケレバ、今ノヤウナサウ云フヤウナ例ガアルカラシテ、競争入札デハ困ルト云フダケデハ、何ダカ物足ラナイヤウナ氣ガシマスガ、其ノ點ヲ今少シ長官ノ御考ヲ願ヒタイ

○政府委員(棟居俊一君) 前段ノ採掘料ヲ入札ニ附スル場合ニ、最低最高價額ヲソレゾレ定メテ置イテ、其ノ範圍内ニ於テ適宜ニ落札者ヲ決メタラドウカト云フ御説デスガ、最高最低兩價格デモ、結局豫定價格デ、是ハ公開スルコトハ出來マセヌカラ祕シテ置カナケレバナリマセヌ、結局入札致シマスル場合ニハ最高價格ヲ突破致シテ入札スル者モ起リ得ルコトデアリマスカラ、ソレヲドウ云フ風ニ致シマスカ、實際問題トシテハ現在ノ建前及會計法ノ精神ニ基キマシ

テモ、左様ナコトハ出來ナイグラウト考ヘテ居リマス

○男爵福原俊九君 私ハ素人デ其ノ方ハ能ク分リマセヌガ最低最高ヲ決メテ置ケバ、其ノ前後ノモノハ無論落札ガ出來ル、其ノ間ニ入ッた者ガ、詰リ落札サレル此ノ間ニモツト二人三人居レバ今度ハ其ノ範圍デ持ッテ行ッテヤレバ宜イ、斯ウ云フコトニハナリマセヌカ

○政府委員(棟居俊一君) 左様ナコトハチヨット現在ノ總テノ建前上出來ナイコトト考ヘテ居リマス、矢張り豫定價格一本デ、最モ適正ナ豫定價格ヲ建テマシテ、ソレ以下ノモノハ素ヨリ資格ヲ失ヒマス、以上ノモノデ最モ高イモノガ此ノ場合ハ權利ヲ得ルト云フ風ナ建前デゴザイマス、尙此ノ改正ハ假令競争入札ノ方法ニ依リマシテ、今ノヤウナ方法ヲ設ケマシテモ、果シテ人造石油會社ニ落札スルカト云フコトハ全ク豫見ヲ許シマセヌノデ、結局普通ノ鑛業會社ノ方ガ權利ヲ得ル可能性ガ多イノヂヤナイカト考ヘラレマス、此ノ但書ヲ附ケマシタノハ左様ナ方法デハ到底人造石油ガ出來ナイカラ、茲ニ一ツノ人造石油事業ニ對シテ特ニ深切ナ途ヲ開イテ樺太ノ資源ヲ開發スルト同時ニ國家ノ優良ナル資源トシテ活

用シタイト云フノデアリマシテ、多分ニ國策のノ意味ヲ含シテ居リマス、手續ヲ申シマズレバ、或ハ隨意契約ニ依ル方法、或ハ指定ニ依ル方法ガアリマスケレドモ、種々ノ角度カラ研究致シマシテ、此ノ建前ガ最モ宜イダラウト云フノデ實ハ結論ヲ得マシタ譯デ、尙缺損ノ多イ會社デモアリマシ、經濟のニハ必シモ有利デアリマセヌノデ、此ノ點ニ付キマシテハ商工省等デモ十分ニ御研究ニ相成ツテ居リマシテ、帝燃ニ依リ種々ノ資本ノ援助、或ハ政府ノ獎勵金ニ依ル助成ト云フ、種々ノ方法ガアリマスルノデ、其ノ點又別途ノ方法デ事業ガ確實ニ成立スルヤウナ方法ヲ講ズルト云フコトガ當然考ヘラレマス譯デアリマス

○男爵福原俊九君 御話ヲ伺ヒマシタガ、今御話ノヤウナ次第デアッデ、競争入札ニスルコトハ拙イト云フコトハ御尤デ、ソコデ私ガ申シマスノハ人造石油ノ原料トナルモノデ相當澤山ナ石炭ヲ使フ、又量ガ多ク、而モソレヲ相當ノ期間、將來ニ互ツテ兎ニ角相當ナ量デスカラシテ其ノ價格ヲ決メルコトハ、之ガ私ハ一番ムツカシイト思フ、デムヅカシイト云フノハ會社ガ相當ニ事業上困難ナ仕事デアルカラシテ、而モソレハ國策のノ仕事デアル、デスカラ此ノ會社ト製造

業者ト決メル時ニハ安クテモ……其ノ決メラレル價格ヲ樺太廳内デ今迄ノヤウナコトデ決メテ、今御話ノ商工省、其ノ他ト實際ノ狀態、總テ今迄ノ事情ヲ考ヘテサウシテ決メラレ、バ、安ク決メラレテモ少シモ他カラノ非難ハ受ケヌト云フコトニナル、デスカラ價格ヲ決メル方法ヲ今迄ノ方法デヤツテ居ラレルヨリモ、何等カノ方法デ決メラレル途ヲ付ケラレタラ大變樂デナイカ、斯ウ云フノガ私ノマア素人考デスガ、ソレハムヅカシイト云フコトデアレバ別ニソレヲ……

○政府委員(樺居俊一君) 只今ノ御意見ハ能ク分リマシタ、樺太廳ガ一存デ決メルコトヲ致シマセヌデ、矢張り豫メ採掘料ノ豫定ヲ立テマシテ、拓務大臣ノ認可ヲ受ケル、拓務大臣ガ認可シマスル場合ノ當然商工省トモ十分協議ノアッタコトト考ヘテ居リマス、極メテ公正妥當ニ決メタイト思ッテ居リマス

○男爵福原俊九君 矢張りサウ云フ風ニオヤリニナルノデスカ

○政府委員(樺居俊一君) 左様デゴザイマス

○子爵野村益三君 過去二十有餘年間ノ樺太ノ統治ノ實績ヲ考ヘテ見マス、開發ニ

付テハ産業ノ開發ヲ先ヅ以テ考ヘラレテ、而モソレガ段々ニ變ツテ居ル、初メハ御承知ノヤウニ漁業、之ニ非常ニ力ヲ盡サレタ、處方モ濫獲ト云ヒマス、サウ云フ風ナ結果デ樺太廳ノ收入ヲ多分ニ賄フト云フ譯ニモ行カナカッタ、ソコデ次ノ長官ハ交通政策ヲ樹立サレタ、ソレデ只今見ルガ如キ鐵道モ其ノ計畫ニ依ッテ出來上ツタ譯デアリマス、處デ其ノ前後ニアリマシテハ所謂乾溜事業ト云フモノガ起ツテ大ナ固定資本ニナツタ、隨分議論ガアッタ、ソレカラ此ノ産業開發、殊ニ樺太廳ノ財政ニ寄與スル爲ニ林業ニ向ッテ當時我々ハ百年間ノ天然更新ト云フヤウナ嘘ノヤウナ話ヲ長官ノ口カラ聽イタコトモアル、處方御承知ノヤウニ林業政策ノ結果ト云フモノハ憂慮ニ堪ヘナイモノガアッテ、サウシテ更ニ考究ヲ直サナケレバナラス、施業案モ十分立テ直サナケレバイカヌト云フ時代ヲ經過シタ、ソレデコ

コ數年前ニハ寒帯ニ適スル特有ノ工業、サウ云フモノヲ考ヘラレテ、現ニ試驗所邊リデソレニ指ヲ染メラレタコトガアル、ソレカラ又ソレト相前後シテ所謂砂糖、甜菜ノ栽培ニ盡力サレタ、ドウモ其ノ樺太ノ産業開發ト云フコトニ付テハ我々非常ニ同情シテ居ルノデアリマス、ト云フノハ御承知ノ

ヤウニ北海道ト云フモノガ控ヘテ居ッテ、サウシテ氣候モ、ソレカラ地味モ似テ居ル、從ッテ産業ノ方面デモ樺太ハ動モスルト北海道ノ後塵ヲ拜スル、後カラ行カナケレバナラス、其ノ先ニ立ッタ北海道ハドンノ拓殖計畫モ立ッテ發達シテ居ル、後ニ控ヘタ樺太ハ其ノ後塵ヲ拜スルダケデ、非常ニ苦心ヲサレテ居ル、其ノ點ガ樺太ノ統治上カラ云ッテモ開發上カラ云ッテモ非常ニ同情ニ價スルコトダト思フ、ソコデ斯ウ云フ今ノ案ヲ立テラレタノデスネ、一方ニ於テハ事變ニ對應スル國策ニ副フベク重油ヲ、油ヲ生産セラレ、他方ニ於テハ樺太廳ハ其ノ採掘スル量ニ依ッテ相當多大ノ歲入ヲ得ル私ハ之ヲ非常ニ巧妙ナル政策ト思フ、所謂一石二鳥ノ法案ダト思フ、非常ニソレハ良イ御考デアリ、巧ミナ方法デアルト思ヒマスケレドモ、今モ委員ノ質問サレタヤウニ、特別ノ取扱ヒヲシテ特別ニ生産ヲスル、斯ウ云フコトニナリマス、將來液化事業ガ方々ニ起リ、石油ノ統制モ講ゼラレタ曉ニ會社ハ非常ニ迷惑スル、採算上困難ニ遭フ、樺太廳ハ豫期ノ歲入ハ得ラレナイト云フヤウナコトニナリハシマイカト云フコトヲ我々モ憂フル、詰リ我々ガ素人トシテノ不安ガアル、デアリマスカラ、只今ノヤウナ色々ナ

質問モ出タモノト思ヒマスガ、其ノ點ハドウ
デアリマセウカ、先刻ノ話ニ依ルト、會社
トシテハ年産百二十萬「トン」ノ石炭ヲ掘ッ
テ、サウシテ二十三萬「キロ」ノ油ヲ拵ヘル
其ノ採算ト云フモノハ、十分ソレハ玄人ガ
考ヘル、商賣人ガ考ヘルノデアリマスガ
ラ、萬遺憾ハナイト思ヒマスケレドモ、
我々ノ安心スルヤウニ御示ヲ願フコトガ出
來マスカドウカ、例ヘバ「キロ」ヲ拵ヘル
ノニ、油ヲ拵ヘルノニ、幾ラノ單價ヲ以テ爲
シ得ルカト云フヤウナコトガ其ノ邊ノ心配
ヲ拭フ一ツノ方法ト思フノデスガ、サウ云
フコトモドウデアルカ、ソレカラ樺太廳ノ
歲入ガ大分是デ何十萬圓、或ハ何百萬圓ノ
歲入ガ得ラレルト思ヒマスガ、其ノ歲入ノ
使途ハドウナルモノデアリマセウカ、或
ハ拓殖計畫ノ中ニ割リ入レテ、ヨリ有益
ナ事業ニ振り向ケラレルノカ、サウ云フ
ヤウナ目算ガ御アリニナルノカ、例ヘバ
石油ノ臭ノスル所ハ八箇所デ、現在二箇所
ヲ試掘シテ居ル、是モデス、本當ニオヤリ
ニナルナラバ十分ニ金ヲ掛ケテオヤリニナ
ラナケレバナラス、隨分ソレニハ金ガ要ル、
採掘ニ依ッテ得タ所ノ歲入ハソッチニ振り向
ケテ、サウシテ尙萬全ヲ期スルト云フノモ
一方法カト思フ、要スルニ會社ノ採算ハ我々

ガ安心スル程度ニ於テ出來上ルモノカド
ウカ、茲ニ樺太廳ノ歲入ハ相當ナモノデア
ルガ、其ノ支出ニ付テハ何方特別ノ御考慮
ガアルカ、ト云フヤウナ點ニ付テ御示ガ願
ヘレバ結構ト思ヒマス、ソレカラ尙此ノ要
覽ノ中ニモアッタヤウデアリマスガ、ナカ
ナカ込入ッテ能ク分リマセスガ、所謂石油ノ
臭ノスル所ハドウ邊デアアルノデスカ、マア
斯ウ北ノ方カラ南ノ方ニ一通リ御示ヲ願ヒ
タイト思ヒマス

ナケレバナラスト思ヒマスガ、之ニ依ッテ歲
入ヲ得ルト云フコトハ最初カラノ目的デア
リマセヌシ、又現實ニ我々ハ期待致シテ居
リマセヌ、假ニ其ノ他ノ方面デ封鎖炭田ガ
開封サレマシテモ、之ニ依ル收入ト云フモ
ノハ先ヅ我々ハ期待致シテ居リマセヌ、又
鑛業稅ハ當然徵收致シマスルケレドモ、鑛
業稅モ現在十四年度ノ豫算ニ於キマシテハ
四十二萬八千圓バカリノモノヲ豫定致シテ
居リマス、是モ百萬圓ニナルコトハ今ノ所
デハ前途遙遠ダト考ヘテ居リマス、樺太廳
ノ十四年度ノ歲入總額ハ四千六百萬圓デア
リマスルガ、此ノ中尤モ繰入金等モ入ッテ居
リマスルガ、鑛業カラ生ジマスル……鑛業
ヲ財源ト致シマスル歲入ト云フモノハ先ヅ
マア殆ド當ニ致シテ居リマセヌ、先ヅソレ
ヨリモ港灣デアルトカ、鐵道、道路、學校、
病院、其ノ他ノ公ノ設備ニ要シマスル樺太
廳ノ負擔ト云フモノハ非常ニ殖エテ參ッテ居
リマス、寧ロ我々ノ方トシテハ鑛業ニ依ッテ
國ノ財政ニ寄與シテ貰フト云フ心持ヨリモ
多分ニ我々ノ方ハ事業ノ爲ニ犧牲ヲ拂ッテ
居ル、奉仕シテ居ル、斯様ナ心持ヲ持ッテ居
リマス、現ニ此ノ度、帝燃ノ子會社ガ出來
タ曉ニ於テモ、鐵道ノ改良、或ハ病院、學
校等ハ當然デアリマスシ、港灣等ニ於テモ

相當多額ノ經費ヲ要スルコトト思ヒテ居リ
マス、財源ト致シマシテノ鑛業ノ價值ト云
フモノハ、御意見トハ甚ダ反シマスケレト
モ、多キヲ期待シテ居リマセヌ次第デアリ
マス、矢張り樺太ノ財政ハ林業ノ上ニ立ッテ
居ルト、我々トシテハ一應考ヘテ、將來林
業ヲ矢張り長期ニ互ッテ培養シテ行クト云フ
コトト、此處ニ事業ヲ起シテ、之ニ依ッテ所
得稅、營業收益稅ヲ得ル、進ンデ林業所得
ヲ財源トスル、歲入ヲ確保スルト云フコト
ガ、最モ策ノ得タモノデハナイカト斯様ニ
考ヘテ居リマス

○子爵野村益三君 サウスルト、今ノ石油
ノ試掘ニ付テハ、本氣ニオヤリニナルノデ
スカ、其ノ財源ハドウナルノデスカ

○政府委員(棟居俊一君) 石油ノ試掘ハ、
只今ハ實ハ八萬圓バカリノ豫算ヲ取ッテ居
ル譯デアリマシテ、年ニ二本乃至三本ノ豫
定デヤラシテ居ルノデアリマス、八箇所ト
申上ゲマシタノハ、西海岸ノ方ニ主トシテ
發見ヲ致シテ居ル譯デアリマス、西海岸ニ
ズット互ッテ居リマス、今掘ッテ居リマス一本
ハ内幌ノ近クデアリマス、一本ハズット北ノ
方デアリマシテ、鶴城ト申シマス所デ掘ッ
テ、是ガ日本鑛業ガ掘ッテ居リマス、南ノ方
ハ日本石油ガ掘ッテ居リマス、日本石油ハ千

○政府委員(棟居俊一君) 石油ノ試掘ハ、
只今ハ實ハ八萬圓バカリノ豫算ヲ取ッテ居
ル譯デアリマシテ、年ニ二本乃至三本ノ豫
定デヤラシテ居ルノデアリマス、八箇所ト
申上ゲマシタノハ、西海岸ノ方ニ主トシテ
發見ヲ致シテ居ル譯デアリマス、西海岸ニ
ズット互ッテ居リマス、今掘ッテ居リマス一本
ハ内幌ノ近クデアリマス、一本ハズット北ノ
方デアリマシテ、鶴城ト申シマス所デ掘ッ
テ、是ガ日本鑛業ガ掘ッテ居リマス、南ノ方
ハ日本石油ガ掘ッテ居リマス、日本石油ハ千

ハ日本石油ガ掘ッテ居リマス、日本石油ハ千

三百五十「メートル」掘ラス積リデ、現ニ既ニ五百「メートル」ばかり掘ッテ居リマス……間違ヒマシタ、兩方トモ日本石油デアリマス、大體千「メートル」位ハ兩方トモ掘ラス積リデ居リマス、將來成ルタケ財源ノ許ス限リ、澤山補助金ヲ出シタイト思ッテ居リマス

○子爵野村益三君 サウシマスト、石油ノ試掘費ト云フモノハ、拓殖計畫ニハ含マレテハ居ラナイ、別ナンデスカ

○政府委員(樺居俊一君) 矢張り含マレテ居リマス、含マレテ居リマシテ、極メテ堅實ニ……業者ノ都合モアリマスノデ、私ノ方ダケノ一存デモ計リ兼ねマスノデ、聯繫ヲ取ッテヤッテ居リマス

○子爵野村益三君 序ノ時……只今ノハ第二次拓殖計畫ト思ヒマスガ、アレヲ一ツ御配付願ヒタイ、今日デナクトモ宜シウゴザイマス

○政府委員(樺居俊一君) 第二次デハアリマセヌデ、矢張り昭和八年ニ立テ十五箇年計畫ノ丁度半バニ今アル譯デアリマス、總テ材料ハ後日御手許ニ差出シマス

○政府委員(小島新二君) 只今封鎖炭田ノ開發ニ依リマスル人造石油事業ノ採算關係ニ付テ御尋ガゴザイマシタ、御承知ノ通り

低溫乾溜事業ニ付テハ、我が國ニ於テモ、企業トシテ經驗ヲ有ッテ居ルノデゴザイマスケレドモ、此ノ水素添加方法ニ依リマスル人造石油事業ニ付テハ、正確ナル工業的ノ資料ハ整ッテ居リマセヌ、朝鮮咸鏡北道ノ阿吾地ニ於キマシテ、朝鮮石炭工業株式會社ガ昨年來綜合的ノ試運轉ヲ續ケテ居リマシテ、其ノ結果漸ク技術上ノ確信ヲ得マシテ、此ノ一月カラ本格的ノ作業ニ入リマシタ程度デアリマシテ、尙撫順ニ於キマシテ、滿鐵ニ於テ只今水素添加法ニ依ル人造石油工業ノ綜合的試運轉ヲ致シテ居リマスガ、是モ本格的ノ作業ハ此ノ六、七月以後ト承知致シテ居リマス、左様ナ事情デゴザイマスノデ正確ナル、此ノ新ラシキ人造石油製造會社ノ採算關係ヲ立テルコトハ固ヨリ至難デゴザイマスケレドモ、一應見透ト致シマシテハ當初人造石油製造事業法案等ノ審議ノ際ニ將來人造石油ノ製造費ハ「ガロン」當リ六十八錢乃至七十四、五錢ト云フコトニ申上ゲテアルノデアリマスガ、此ノ樺太ノ石炭ヲ利用致シマスル人造石油事業ハ、日本ニ於キマスル各種人造石油事業ノ中デモ最も有利ト認メラル、モノニ一ツト私共ハ考ヘテ居リマス、而ウシテ此ノ水素添加事業ニ依リマスル生産費等ヲ一應考ヘテ見マスルト云フ

ト、現在人造石油ノ中デモ技術上比較的簡單容易ナモノト認メラレテ居リマスル低溫乾溜事業ニ對シテ補助ヲ致シテ居リマスルヨリモ、モウ少し少ナイ助成ニ依リマシテ相當企業トシテ採算ガ成立ツ、斯様ニ認メテ居リマスルヤウナ次第デゴザイマス

○子爵野村益三君 ココ迄御話ガアリマストモウ少し承ッテ置キタイノデスガ、御差支ナラバ後程デ宜シウゴザイマスカラ御示ヲ願ヒタイノハ、ドウモ此ノ液體燃料ノ問題ニ付テハ、無論朝鮮ヲ擧ゲテ今努力モシ注意モシテ居ルノデアリマスガ、色々我々ガ耳ニシテ迷ダ迷フ、今御話ニナッタ方面デモヤッテ居リマスシ、又外デモヤッテ居ラレルト思ヒマスガ、斯ウ云フコトガ、御示シ願ヘマスマイカ、此ノ液化事業ニ付テハドコデ計畫ガアッテ、其ノ計畫ハ生産量ガドノ位デ、何時迄ニドノ位出來ル豫定デアルト云フヤウナコトヲ列記ラシテ纏リヲ考ヘテ見ルト……、マア祕密デモ何デモナイト思ヒマスガ、サウ云フヤウナ御示ガ願ヘマセウカ、願ヘマスマイカ、ドウデアリマセウ

○政府委員(小島新二君) 只今ノ御尋ニ御答ヲ致シマスル、人造石油事業ノ大體ノ模様ニ付テ申上ゲマス、人造石油製造事業法

ガ制定セラレマシテ以來、今日迄同法ニ依リマシテ許可ヲ受ケマシタモノガ内地ニ於キマシテハ八社十一工場、朝鮮ニ於キマシテハ二社三工場、樺太ハ三菱ノ一工場デアリマシテ、合計五工場ニナリマス、其ノ内譯ヲ申シマスト、現在操業中ノモノハ大部分從來カラヤッテ居リマスル低溫乾溜事業デゴザイマシテ、日本製鐵ノ輪西ノ工場、宇部窒素ノ工場、ソレカラ朝鮮ニ於キマシテハ朝鮮窒素ノ永安ノ工場、朝鮮石炭工業ノ阿吾地ノ工場、樺太ニ於キマシテハ三菱ノ内幌ノ工場、其ノ外ニ先程申上ゲマシタヤウニ朝鮮ノ阿吾地ノ水素添加事業ガ只今操業ニ變ッテ居ルヤウナ次第デゴザイマス、目下工場ノ建設中ノモノハ水素添加事業ト致シマシテ内地ニ三工場ゴザリマス、ソレハ日本油化工業、日産液體燃料工業、東邦化學工業デアリマシテ、其ノ中日本油化ノ工場ハ此ノ六七ノ頃ヨリ事業ヲ開始スル豫定ニ相成ッテ居リマス、石油合成事業ニ付キマシテハ、内地ニ於キマシテ、三工場アリマシテ、三井鑛山ノ大牟田ノ工場、是ハ本年ノ八九月頃ヨリ操業ニ入ル豫定デアリマス、其ノ外ニ北海道人造石油ノ留萌、瀧川ノ二工場ガ工場建設ニ掛ッテ居リマス、更ニ低溫乾溜事業ト致シマシテハ、内地ニ於

キマシテ日産液體燃料、東京瓦斯化學工業、東邦化學工業ノ三工業ガアリマシテ、日産液體燃料ノ工場ハ十一月頃ヨリ作業ニ入りマス豫定デアリマス、其ノ外ニ低溫乾溜事業トシマシテ、樺太ニ於キマス三菱ノ石炭油化學工業ノ工場及朝鮮ノ阿吾地ノ水素添加工場、是等ノ擴張ノ計畫ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尙御尋ノ製造ノ能力ニ付キマシテハ、此ノ場合御話ヲ差控ヘタイト存ジマス、御諒承願ヒマス

○子爵野村益三君 此ノ低溫乾溜ハ御承知ノヤウニ川口ノ燃料研究所、アスコデモウ十年モ前カラヤッテ居ル、當時アスコニ行ッタ時ニハ「コーライト」ノ問題デ、相當ノ値段、捌口サヘ付ケバ採算ガ合フト云フ御話デアリマシタガ、近頃ハ例ノ水素添加ノ方法ナド出來テ參リマシタガ、政府トシテハドウデセウ、ドッチヲ重ク視テ、ドッチヲ獎勵サレル思召デアリマスカ、何ダカ今兩方ヤラシテ見テ、自然ニドウナルカ様子ヲ見ヨウト云フヤウナ何カソナ風ニモ考ヘラレルノデアリマスガ、一體ドッチヲ眞劍ニ御ヤリニナルノデアリマセウカ、採算上カラ先程ノ御話デハ此ノ低溫乾溜ノ方ガ助成金ガ多イト云フヤウナ御話デアリマシタガ、サウスルト低溫乾溜ニモ考ヘラレルノ

デアリマス、其ノ點我々共素人ナノデ素人ニ分リ易イヤウニ一ツ御話ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(小島新二君) 御承知ノヤウニ低溫乾溜事業ハ技術的ニハ餘リ困難ハゴザイマセヌノデアリマスガ、「コーライト」副産物ノ利用方面ニ關シマシテ、事業トシテハ成立ガナカノ困難ナノデアリマス、商工省ノ燃料研究所ニ於テモ從來低溫乾溜方法ニ依ル人造石油事業ノ研究ヲ終リマシテ以來、更ニ石油合成法及水素添加法ニ依ル人造石油ノ製造ニ付テ中間工業試驗ヲ進メテ參ッテ居リマシテ、近ク是ガ完成ヲ見ル順序ニ相成ッテ居リマス、今日迄ノ研究ノ結果ニ依リマス云フト、是等ノ三方法ハソレゾレ特徴ヲ持ッテ居リマシテ、原料炭ノ關係ハ勿論或ハ目的トスル製品ノ種類、普通ノ重油ニ重キヲ置クカ、或ハ自動車ノ揮發油、更ニ航空機用ノ高級ナル揮發油ヲ得ルカト云フヤウナ製品ノ方面等カラ見マシテモ、何レガ宜イト云フヤウナ譯ニハ參ラスト思ヒマス、殊ニ事業トシテ見タ場合ニ於キマシテハ、是等ノ三ツノ製造方法ヲ綜合的ニ之ヲ利用スルト云フコトガ、最モ經濟的デアルト云フヤウナ結論ニ到達致シマシテ、川口ノ燃料研究所ニ於キマシテハ、是等ノ

三方法ヲ綜合的ニ利用致シマスル相當大規模ノ工場試驗ヲ致ス必要ヲ認メマシテ、昭和十四年度ノ豫算ニ於キマシテ、是ガ設備費ヲ要求致シテ居リマス、此ノ計畫ハ大體五百萬圓ノ設備費ニ相成ッテ居ル次第デアリマス、而シテ現在ノ各人造石油會社ノ事業計畫ヲ見マスト云フト、低溫乾溜事業ダケデハ足りマセヌノデ、矢張り其ノ場合出來マシタ「タール」ニ水素ヲ添加スル、或ハ同時ニ其ノ「コーライト」ヲ利用シマス合成事業ヲ同時ニ考ヘルト云フヤウニ石油合成法、低溫乾溜法、水素添加法ヲソレノ原料炭其ノ他ノ事情ニ應ジテ適當ニ按配利用スルコトニ實際ノ事業界ノ動キモ進ンデ居ル次第デアリマス

○子爵野村益三君 ソコ迄伺フト非常ニ私心強イ感じガ致スラシイノハ、嘗テ窒素ノ合成作業ニ付テ、我が國ニ於テ特殊ノ「カタライザー」ヲ拵ヘタ、ソレニ依ッテ非常ニ好成績ヲ擧ゲテ居ル、サウシマス今ノ御話ニ依リマス、例ヘバ水素添加法ニシテモ、或ハ合成法ニシテモ、何カ獨特ノ日本デ研究サレテ居ル特殊ノ方法ノ……程度ノ問題カモ知レマセヌガ、兎ニ角特殊ノ方法ガ出來タノデスガ、低溫乾溜ノコトハ暫ク措キマシテ、ソレデアリマス、非常ニ我々ハ

心強イノデスガ、ドウデアリマスカ

○政府委員(小島新二君) 人造石油製造事業ハ御承知ノヤウニ新興ノ化學工業デゴザイマシテ、ナカノ困難ナ事業デゴザイマスガ、併シナガラ國防上重要ナ産業デゴザイマスノデ、我が國ニ於キマスル研究ハ何處迄モ助長致シマシテ、又漸ク最近芽生エテ參リマシテ、更ニ或程度迄進ンデ居リマスル此ノ技術ヲ、更ニ一層培養致シマシテ、我が國獨特ノ技術ニ依リマスル人造石油事業ヲ完成致シタイ、斯様ニ考ヘテ居リマス、併シナガラ時局柄人造石油事業ノ急速ナル振興ト云フ意味ニ於キマシテ、外國ノ特許技術ヲ採入レルト云フコトモ亦已ムヲ得ザル事情モゴザイマスノデ、合成法トシテ技術經驗ノ積マレタ所謂「フィッシャー」法ノ輸入ヲ見テ居リマス次第デゴザイマス、併シナガラ一方國內ニ於キマスル海軍省、商工省ノ研究ヲ初メ民間ニ於キマシテモ、ソレノ技術ノ改善進歩ニ努メテ居リマスルシ、又水素添加事業ニ付キマシテハ、先程來申上ゲマシタ朝鮮及撫順ニ於キマスル兩工場ノ如ク、全ク我が國獨特ノ技術ニ依リマシテ、之ガ工場ノ運轉ニ迄入ッテ居ルヤウナ狀態デアリマシテ、今後トモ是等ノ研究ヲ何處迄モ進メテ參リマシテ、御話ノ

ヤウニ外國ノ技術ニ存セズシテ、此ノ國防産業ヲ確立スルヤウニシタイト、左様ニ考ベテ居リマス

○子爵野村益三君 序ニ私重要ナコトト思フノデ當局ノ御參考迄ニ申上ゲテ置キタイト思フノデス、本邦ノ工業ニ關スル色々ノ研究機關ト云フモノハ兎角方々同ジコトヲヤツテ居ル、ソレデハ此處デ申上ゲテモ宜イト思ヒマスガ、嘗テ私ガ人造樟腦ノコトヲ研究シテ視テ廻ツタ、其ノ時ニ驚クベキコトハ東京市ノ内外ニ於テ三箇所デヤツテ居ル、實ニ驚イタ、何カサウ云フ方面ニ向ッテサウ云フコトヲ觀察シテ、無益ナ重複ヲ避ケルト云フヤウナ、此ノ方法ヲ講ズルノガ宜イノデハナイカ、ト云フヤウナコトヲ御話シタコトガアル、勿論學者ガ研究スルノデアリマスカラ、或ル程度迄ハ競争ト云フコトモ必要デセウ、併シナガラ今モ御話シタヤウニ人造樟腦、此ノ「ターペンチン」カラ拵ヘルノニ三箇所デヤツテ居ルト云フノハハ甚ダ私ハ考ヘナクチャナラスコトダト思フ、處デ二三年前ニ臺灣ノ當局者ノ話デハ、矢張り其ノ「ターペンチン」カラ樟腦ヲ拵ヘルト云フコトヲ伺ツタカラ、實ハ斯ウ云フ風ナ經驗ガアルノデアアルガ、臺灣デ特ニ始メラレルノハ、從來ノ方法ヨリモ非

常ニ立チ優ツタ方法デアアル、ソレヲ利用シテ、サウシテヤラレルト云フナラマダ話ガ分ルガ、其ノ邊ノ研究ハドウデアアルカト云フコトヲ御尋シタノデアリマスガ、其ノ時ニハ遂ニ要領ヲ得ナカツタ、中央研究所ノ研究ト思ヒマスケレドモ、ドウモサウ云フ風ナコトガ今デモアルノデヤナイカト思フ、ソレデサウ云フコトヲデヤ何處デ取締ルカト云ヘバ、是ハマア自ラ別問題ニナリマスケレドモ、何カサウ云フコトニ付テノ相當ナ機關ハアルマイカト云フ御尋ノ末ニ、此ノ資源局デ報告ヲ出シテ居ル、非常ニ厚イ報告デアリマス、唯アレハ何處デ何ヤツテ居ルト云フ報告タケニ過ギナイ、進ンデ今申シタヤウニ重複ヲ避ケテ、サウシテ生産ヲ一箇所ニ集中シテ效果ヲ早く擧ゲシムルト云フ點ニ於テハ、何等盡シテ居ラナイト思ヒマス、其處デマア今色々御話ヲ伺ヒマシタガ、サウ云フヤウナコトデアッテハ折角ノ研究モドウカト思フ、併シナガラ尙外ノ長ヲ採ッテ取入レルト云フコトハ是ハ宜イデセウ、例ヘバ窒素ノ合成ニシテモ「ハーバー」式トカ「カタライザー」式トカ色々ノ方法ガアリマスシ、「コーライイト」モヤツテ居ル所モアル、ソレモ宜イデセウケレドモ、亦日本ニ於テ特殊ノ研究ヲサレテソレヲ活

用サレル、ソレモ結構デアアル、ケレドモ其ノ研究ト云フモノニ餘リ重複ノナイヤウニ、一ツ中央ノ方面モソレカラ外地ノ方面モ能ク御話合ニナツテ、サウシテ速カニ良イ效果ヲ擧ゲルヤウニ一ツ御考ヲ願ヒタイ、此ノ際特ニ其ノコトヲ希望シテ置キマス

○侯爵大炊御門經輝君 只今御説明ニナリマシタガ、二三御尋ネシタイト思ヒマスガ、ソレハ改正案ノ第一條ニ依リマシテ人造石油製造事業ノ許可ヲ受ケマシタ會社ノ採炭ハ、建前トシテ原料用炭ニ限り、石炭ヲ生デ賣レバ採算上都合ガ好イト云フ風ナ商賣本位デハ御許ニナラナイ御方針ノヤウデゴザイマスガ、石炭ノ質ハ場所ニ依リマシテ非常ニ變化ニ富ンデ居ルモノデアリマシテ、同一炭田ニ於キマシテモ、炭質ガ異ナル場合ガ多イノデゴザイマス、從ッテ人造石油ノ爲ニ御許可ニナツタ區域内ニ於テモ液化ニ適シナイ、適シナイト申シマス誤弊ガアルカモ知レマセスガ、ソコニ設備致シマシタ工場デハ間ニ合ハナイ、サウ云フヤウナ石炭ガ取レル場合ガアルト思ハレマスガ、此ノヤウナ場合ニモ他ノ用途ニ轉用スルコトヲ御認メニナラナイノデゴザイマスガ、ソレカラ人造石油製造ノ爲ニ採掘ヲ御許可ニナツタ區域ノ近クニ若シモ液化ヨリモ、寧

ロ動力用石炭ニ適シタモノガアリマシタ場合ニ、其ノ採掘ノ許可ヲ受ケマシタ會社ニ、採炭ヲ御許ニナツタ場合ニハ、仕事ヲヤツテ行ク上ニ非常ニ採算上都合ガ好イト思ハレルノデアリマスガ、サウ云フ場合ニ御許可ニナルコトガアリマスカドウカ、ソレカラ帝國燃料興業株式會社ガ其ノ仕事ノ上デ色々困難ノ點モアルト思ハレマスガ、是ハ技術上ノ關係モゴザイマセウガ、一ツニハ採算上ノ原因モアルト存ジマスノデ、只今ノヤウナ點ヲ御考ニナツテ居ラレマセウカ

○政府委員(樺居俊一君) 人造石油製造事業會社ニ對シマシテ、採掘ヲ許可ヲ致シマスル石炭ハ、原則トシテ會社ガ直接使用致シマスル液化原料炭、發電用炭、或ハ鐵道モ一部敷設致シマスノデ是等ノ原料是等ノ會社ノ従業員ノ家庭用炭ト云フモノニ豫定ヲ致シテ居リマス、併シ絕對ニ他ノ用途ニ用ヒルコトヲ認メナイカト申シマスルト、其ノ時ノ事情ニ依ッテ他ノ用途ニ多少融通スルコトガ必要デアルト云フコトモアリ得ルコトト考ヘルノデ、例ヘバ其ノ地元デ非常ニ石炭ノ缺乏シテ居ルヤウナ際ニハ國庫カラ供給ヲ認メタイト思ッテ居リマスルシ、又時ノ推移ニ依リマシテ、内地方面デモ石炭ノ缺乏ヲ、非常ニ逼迫ヲシテ居ルト云フ

ヤウナ所モアリ得ルコトト考ヘマスケレドモ、此ノ際モ地ノ利ヲ得テ居リマス方面デアリマスレバ成ルベクサウ云フ際ニ此處カラモ補給ヲ致シタイト考ヘテ實ハ居リマス、其ノ際ニハ個々ノ場合ニ樺太廳方許可ヲ致スト云フコトニ致シタイト思ッテ居リマサ、此ノコトハ條件ニ示スコトニシテ居リマス、原則ト致シマシテハ副業的ニ石炭ノ販賣ハヤラシクタイト考ヘテ居リマスガ、事情ニ依ッテ此ノ途ヲ開キタイト思ッテ居リマス

○侯爵大炊御門經輝君 只今ノ御話デ大體了解致シマシタガ、樺太ノ日本海側ノ附近ノ惠須取附近ノ炭田ハ近年非常ニ發達致シマシタガ、此ノ中南部ノ封鎖炭田附近ハ氣候ノ上カラ申シマシテ此ノ南部ノ日本海側ノ海ハ冬デモ暖流ノ關係デ凍結シナイデ非常ニ惠マレタ地域デゴザイマスガ、此ノ附近ノ中南部封鎖炭田ヲ、此ノ際ニ石炭液化竝ニ動力炭ノ採掘ニ徹底的ニ御開發ニナル御考ハナイカ

○政府委員(棟居俊一君) 中南部ノ炭田ハ殆ド全部封鎖炭田ニ屬シテ居リマシテ、民有炭田ハ殆ド數ウルニ足ラナイノデアリマサガ、從ヒマシテ封鎖炭田ヲ開封シテ、只今御述ニナリマシタヤウナ液化炭、或ハ其

ノ他ノ用途ニ供スル石炭ヲ盛ニ採掘スルコトニ付キマシテハ、只今ノ所ハ低廉ノ資本ニ依リマスル内淵炭ヲ原料トスル液化會社以外ニハ、液化會社ト致シマシテハ考ヘテ居リマセヌ、内幌ノ三菱ノ事業ヲ更ニ擴大サスト云フコトハ將來考慮サル、コトト思ッテ居リマス、一般ノ此ノ燃料炭ト致シマシテ、内幌ノ封鎖炭田ノ一部ガソレニ最モ適シテ居リマスノデハ事情ニ依リマシテハ各方面カラ研究致シマシテ、或ハ開封スルト云フヤウナ機運ガ來ルノデヤナイカト考ヘテ居リマス、具體的ニハ未ダ考ヘテ居リマセヌ

○委員長(伯爵堀田正恒君) 如何デゴザイマスカ、質問ハマダオアリデゴザイマスカ
○子爵秋元春朝君 質問終了ト云フコトニナサラズニ尙又他ノ機會デ私モスルカモ知レマセヌガ、本日ハ此ノ程度デ延會ナサラムコトヲ希望致シマス

○委員長(伯爵堀田正恒君) ソレデハ本日は是デ散會致シマス

午後四時十一分散會

出席者左ノ如シ

委員長 伯爵堀田 正恒君
副委員長 男爵大藏 公望君

委員

侯爵池田 宣政君
侯爵大炊御門經輝君
子爵野村 益三君
子爵秋元 春朝君
子爵保科 正昭君
男爵福原 俊丸君
男爵久保田敬一君
今井田清徳君
丸山 鶴吉君
澁澤 金藏君
今井 五介君
風間八左衛門君

政府委員

燃料局長官 小島 新一君
拓務政務次官 寺田 市正君
拓務省管理局長 副島 勝君
朝鮮總督府政務總監 大野綠一郎君
朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君
樺太廳長官 棟居 俊一君

昭和十四年三月二日印刷

昭和十四年三月三日發行

貴族院事務局

印刷者 内閣印刷局